

宮ヶ瀬ダムと私の生活

聖園女学院中学校

一年 石川 千暖

私は小学四年生の時に校外学習で宮ヶ瀬ダムに行ったことがあります。私は生まれて初めてダムを見たので、とても大きくて迫力がありびっくりしたことが、大きなつり橋を渡ったり、友達と走り回ったりした事しか覚えておらず、ダムにどのような役割があるのか、自分の生活とどの様な関係があるのか考えることはありませんでした。そこで今回改めてダムについて考えてみました。

まず、そもそもなぜ「ダム」があるのか調べてみました。ダムをつくる目的として「治水」と「利水」に分かれます。治水とは、台風など大雨で洪水が発生したとき、その一部をダムに貯留し、ダムから下流に流れる川の水を減少させることで、下流の洪水被害を軽減するもので、洪水調節というそうです。利水とは、ダムに貯留された

水を、発電、飲料水、かんがい、工業用水などに利用することです。河川の水量は、流域の雨の状況によって増減し、小雨の場合は、水が不足する恐れがあるため、ダムに貯めた水を利用して安定して水を使うことができるそうです。このことを調べている時に、令和元年に発生した台風十九号のことを思い出しました。私が住んでいる平塚市と茅ヶ崎市との間に流れている相模川が大雨により氾濫する可能性があり、その様子をテレビで見ていると、怖かったことを覚えています。実際の被害として、床下浸水や道路の冠水などがあったそうですが、人的被害はなかったそうです。この時、被害が広まらずに済んだのは、まさに宮ヶ瀬ダムのおかげだったのです。もし、宮ヶ瀬ダムがなかったら被害は想像もできないほど拡大していたかもしれませぬ。

では、なぜ宮ヶ瀬ダムをつくったのでしょうか。理由の一つとして相模川の氾濫の防止があったそうです。相模川は度々大きな氾濫があり、周辺住民の生活を脅かしてきましたが、宮ヶ瀬ダムが水量を調節することで安心して生活することができています。また、もう一つの安心として、不自由なく水を使うことができます。

人口増加と産業発展による水需要の増加にも対応でき
おり、平成十三年以降、宮ヶ瀬ダムと他のダムの運用に
より相模川水系では渇水の発生はしていません。私の知
らないところで宮ヶ瀬ダムに助けられていたのだと分か
りました。

今回、宮ヶ瀬ダムの事を調べている中で一番驚いた事
は、ダムを建設するにあたり二八一世帯の方々が移転を
余儀なくされたそうです。水源の確保や防災のためとは
言え、自分の生まれ育った家を失うことは悲しいこと
です。それでもダム建設の意味を理解してくれたことで、
今の私たちの生活が成り立っていると思えます。これか
らは様々な人たちの協力のもと、安心な水が飲んでいる
ことに感謝し、生活をしていきたいです。